

千年の森便り No.107

2012.08.09

ちば千年の森をつくる会

<http://www7a.biglobe.ne.jp/~toyofusajima/>

事務局長 伊藤道男

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8月5日(日) 晴 「夏のキノコと植物の観察会」

伊藤、岩崎、鶴沢、甲斐、苅米、栗山、小又、坂本(文)、中田夫妻と子供たち、根本、福島、松田、真鍋、宮林、村野、山口の会員22名に、吹春講師、東大の奈良先生、千葉菌類談話会、自然観察ちばの皆さまをはじめ、千葉・神奈川県各地から大勢ご参加があり、更に東大修士1年の宓(ミー)さん、千葉大博士課程今春卒業のファンさんほかベトナム、タイの千葉大留學生も加わり総勢48名の盛況でした。昨夏と異なりキノコの非常に少ない観察会でしたが、参加の皆さんが、吹春講師のお話を熱心に聴き勉強されていました。この日の夜吹春講師から「きのこの多い少ないは、自然のことなので、それもまたきのご観察会です」とのメールを頂きました。また「奈良先生など、世界を代表する菌根菌の学者が豊英島で交流された意義は大きい」とのコメントもありました。(真鍋)



総勢48名の盛況

○キノコ観察

吹春講師ガイドのキノコ観察は湿地で例年キノコが多いホテイ岬方面、10数名が先生に同行しお話を聴きながら観察。出合ったキノコは、オオクロニガイグチ、コゲチャイロガワリ、コテングタケモドキ、キヒダタケ、カワラタケ、ニガイグチモドキ、クロタマゴテングタケ、ハナピラニカワタケ、ヒイロタケなど。また、モミの幼木を実際に掘って菌根の話、開花中のクロムヨウランを観ては、キノコとの共生について講義等など。毎度のことながら、楽しく勉強できました。(宮林)



イグチ2種:左がコゲチャイロガワリ、

右がオオクロニガイグチ、

コゲチャイロガワリも本郷先生の記載による種で、西日本から中国南部に分布するシイ・カシの照葉樹林の種です。オオクロニガイグチは、千葉県ではモミが混じる林に発生することが多く、千年の森の、モミが混じる林の特徴をあらわしているともいえます。



コテングタケモドキ

動物実験では猛毒とされているが未だ中毒者がでていない不思議なきのこ。本郷先生の記載による種で、ネパールにまで分布し、シイ・カシの照葉樹林に分布する夏のきのこです。

○吹春講師の話

採集したキノコを同定後、プリントを参考に、おもに胞子の色で分けた分類順にお話しがスタートした。初めに、胞子が白~クリーム色のグループ。ベニタケの仲間は、きのこがもろく、乳液を出すものが多い。シイ、カシと外生菌根を作るが、種類が多く名前がつかないものが多い。今回は、ウコンハツ(黄色でわかりやすい)、チチタケが採取された。チチタケは、ダシがでるので栃木県ではチチタケウドン(ソバ)に使われている。ベニタケの仲間では毒があるのはニセクロハツ。京都の特定の場所で採れるもので、千葉県では出ていない。

キシメジ科は、ホンシメジ、ブナシメジ、マツタケなどが含まれるが、今日は少なかった。ホウライタケの仲間は落葉を分解するきのこで、落ち葉が付いている。今回はスジオチバタケが採取された。

テングタケの仲間の特徴は、ツバ（内被膜）とツボ（外被膜）。傘の表面に溝線があるのがツルタケ、ないのがドクツルタケ（味はいいが、食べたら死ぬ）。房総のきのこを代表するものとしてカブラテングタケが採取された。これは、東アジアのシイ、カシ林に出るきのこ。ほかに、クロコタマゴテングタケ、ヘビキノコモドキ（千葉でよく採れる）、コテングタケモドキ（本当に毒があるか不明）が採れた。



木陰でキノコ談義に聴き入る

ウラベニガサの仲間は胞子がピンク色で、今回はカサヒダタケが採取された。

イグチの仲間の特徴は、傘の裏の管孔。いろいろな植物と外生菌根を作る。ニガイグチモドキは、管孔の出口に紫色の縁取りが付く。オオクロニガイグチはモミに出るきのこ。キヒダタケは、管孔ではなくヒダがある。食用菌が多いが、毒のものもあるので要注意。

硬いきのこの仲間は、ヒイロタケ（赤い、伐開地倒木に発生）、ウチワタケなどが採取された。また、漢方薬に使われるブクリョウが採取された。参加者から、ブクリョウは、昭和30年代にその採取を専門にする人が清和にも来ていたという話があった。（福島）

○採集されたキノコは32種

ベニタケ科 ウコンハツ チチタケ

キシメジ科 ◎スジオチバタケ、◎アシグロホウライタケ、ダイダイガサ

テングタケ科 シロコタマゴテングタケ、コテングタケモドキ、カブラテングタケ、シロオニタケ、ドクツルタケ、ツルタケ、ヘビキノコモドキ、コシロオニタケ

ウラベニガサ科 ◎カサヒダタケ

イグチ科 キヒダタケ、キイロイグチ、キアミアシイグチ、コガネヤマドリ、◎コゲチャイロガワリ、◎オオクロニガイグチ、ニガイグチモドキ

タコウキン科 ヒイロタケ、ウチワタケ、◎チリメンタケ、◎ベッコウタケ、◎ブクリョウ、コフキサルノコシカケ、キアシグロタケ

マンネンタケ科 コフキサルノコシカケ

タバコウロコタケ科 ◎ワヒダタケ、ネンドタケモドキ

シロキクラゲ科 ハナビラニカワタケ

以上種名の判明したもの32種類。この内きのこ目録未記載種（◎で表示）9種類。

きのこの発生が少ないわりに、未記載種が多かったのは参加者が熱心に様々なきのこを採集してくれた結果と思われます。（村野）

○植物観察

巨木林のクロムヨウラン自生地は、腹ばいで花を撮影する姿が目立ちました。花のピークは1週先の感じでした。シャクジョウソウは所在不明、ツチアケビは1株を残し全滅でした。マツグミは赤い花。クロヤツシロランの朔果やシュスランを探している人達もいました。（真鍋）



クロムヨウラン(B) 加藤恵美子氏



マツグミ(B) 福島

○昆虫や動物

湖岸に新しいシカの足跡。ヘビ類では、ヤマカガシ、昆虫では、タマムシ、ムラサキシジミを確認しました。奈良先生はマムシを、中2の大作君はトビナナフシを発見しました。(福島)

ニホンザルの群れ；センサーカメラの写真から

久しぶりにニホンザルの群れが写りました。画面では3頭の列と金網に1頭の4頭ですが、別のカットでは胸に赤ちゃんを抱えた母猴も写っていましたので、少なくとも6頭、全体では10頭前後の群れだったのではないのでしょうか。カメラの記録によれば7月22日18時過ぎに渡って来て、翌日14時過ぎに帰っています。坂本(文)



ニホンザルの群れ入林 7月22日 18:02

○野鳥記録；子供達はカワセミを見た！

林の中は葉が茂っているので、野鳥の姿は見づらい時期が続いています。島から帰る時、吊橋の下をカワセミが水面スレスレに飛んでゆくのが見えました。一瞬の事でしたが、先を歩いていた中田家、大作家の子供達も青い流れ星の様な姿をしっかりと見ていました。当日の確認は以下の11種でした。ヒヨドリ、キジバト、ヤマガラ、トビ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ウグイス、ハシボソガラス、カワウ、カワセミ(順不同)坂本(文)

○参加の皆さんから寄せられたご感想の一部を以下に紹介します。(見出しは編集者がつけました)

「豊英島で虫取りやキノコさがし」

(打瀬小3年 中田智貴君)

ぼくは、豊英島で虫取りをしようと思っていました。豊英島には木がいっぱいあるからクワガタやカブト虫がよくいそうだなと思ったからです。島に着くと大作さんのお兄ちゃんと一緒に虫探しをしました。

しいたけを育てている場所に行くと、しいたけの網のなかに白い大きなキノコを見つけました。そのキノコは、傘の上にボコボコがあり、裏側はひだ状でした。ツバとツボがありました。傘の大きさは直径25センチぐらいだったと思います。「すごく大きなキノコだなあ。先生に見せよう。」と思ってキノコを取ろうとすると、お兄ちゃんに「それ、毒だからダメ。」と言われたので、取るのをあきらめました。

また、虫探しをしていると地面がもっこりとしているところから、サルノコシカケのようなキノコが生えているのを見つけました。「サルノコシカケなのに、なんで地面から生えているのかな。」と思ってキノコを取ろうとしましたが、固くて取れませんでした。

クワガタは腐った木に隠れているので、腐った木の中も探しました。すると、コクワガタのメスを見つけました。他にも、クワガタの幼虫やカミキリムシの幼虫を見つけました。ぼくは「ラッキー」と思いました。

さらに、ぼくが落ち葉をふんで歩いていると、落ち葉の下からセミが飛び出してきたので、追いかけて取りました。木に止まっているセミが、落ち葉の下にいたなんてビックリしました。

豊英島は、虫取りやキノコさがしがたくさんできて、とてもうれしかったです。

「豊英島でランさがし」

(座間市 上田泰昭氏)

今回初めて参加させて頂いた神奈川県の上田です。千葉県のランの花を15年以上追いかけて写しています。豊英島にどのようなランがあるか興味を持って居りました。今回はキノコが主体ですので殆ど個人では動けず、島の雰囲気を見るにとどまりました。9月か10月の入島日にクロヤツシロランを是非見させて頂きたいと思っています。大変有意義な一日でした有難う御座いました。

クロヤツシロランはこの森で一度も開花を見ていません。今年は是非とも花を見たいので、一緒に探しましょう。9月～10月のご参加大歓迎です。(真鍋)

(横浜市 金子悠太氏)

お疲れ様でした。昨日は楽しく勉強させていただきました。ありがとうございました。個人的には、特に、ヤマボウシ、クロムヨウラン、チチタケ、ホテイチクが印象に残りました。また機会があれば参加させて下さい。

○「森を支える木とキノコの共生」

キノコ観察会に参加された、東京大学大学院新領域創成科学研究科の奈良一秀準教授が今年の学融合セミナーで講演された動画を、大学と先生のご了解を得て、DVDコピーをキノコ観察会参加者に差し上げました。視聴した方々から寄せられた感想を以下に紹介します。

DVD「森を支える木とキノコの共生」を見て

(船橋市 三沢博志氏)

キノコについては、まったくの素人です。図鑑などに、腐生菌、菌根菌とあっても、それを深く知ることもなく今まで生きてまいりました。このDVDは、森林の機能、キノコの生活様式、樹木との共生、菌根菌の役割から、植生回復、森林再生まで、森とキノコの関係を知るためには、初心者にもとても解り易い内容になっています。

このDVDを見て、菌根菌のキノコの奥深さを知ることができました。森は樹木に覆われていますが、地下には菌根菌のネットワークが張り巡らされて、まるで地下の支配者のようにも思えます。植物の遷移や森林の再生にも、菌根菌が重要な役割を果たしているとのこと、今後の奈良先生による研究の成果から目を放すことはできません。大いに注目するところです。

もし、樹木が枯れてしまい、菌根菌が樹木から養分を受け取れなくなったときはどうするのでしょうか。運命共同体として死滅するのでしょうか。それとも、他の樹木の根にまで菌糸を伸ばしていくのでしょうか。そのとき、他の菌根菌とは競合しないのでしょうか。あるいは、当初から実生の樹木のあかちゃんにまでネットワークを広げ、保険をかけているのでしょうか。興味は尽きるところがありません。

(桑田里山の会事務局長 宇津井 茂氏)

昨日は大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。奈良先生のDVD早速見させていただき、生物学好きを自認している私ですが、知らなかったことがたくさんありました。私たちは、杉林をほとんど伐採して落葉樹を植えて11年間、保全活動を行っています。まだまだクヌギ コナラは下草を刈って保護してやらなければならない成長段階ですが今後の活動に大変参考になりました。観察会の日、キノコが少ないことにお詫びの言葉がありましたが、全く当たっていません、大変満足致しました。私どものメンバーにも、DVDとともに、貴会の活動を紹介したいと思います。桑田里山の会のURLをお知らせします。ご興味があれば覗いてみてください。」 <http://www.milmil.cc/user/kuwasato/>

(四街道市 松川 裕氏)

キノコが森を作り、その森を人類が破壊し続けている構図は本当に愚かしいですネ。菌根菌を使って森を再生する先生方の努力に大いに期待をしています。

(会員も今後ご感想をお寄せ下さい)

お知らせ

○9-10月の定例活動日

9月17日(月、敬老の日) 9:30 木のふるさと館駐車場集合。シカ個体数調査、植生(食害)調査、植物調査、マダケ林調査、野鳥調査など

10月21日(日) 9:30 木のふるさと館駐車場集合。キノコ観察会(内部行事)

○新入会員紹介; 宓 茹澧(ミー・ルイン)さん、中国上海市出身、東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程1年。8月5日入会しました。宜しくお願いします。

○奈良先生のレクチャー動画「森を支える木とキノコの共生」を入手ご希望の会員は「ちば千年の森をつくる会」sennennomori@hotmail.co.jp 真鍋宛申込み下さい。定例活動日に配布します。